

除雪用重機消防本部に寄贈

釧路市の後援会 周年事業前倒し

火災や救急予防、消防機関の援護後援などを行う「釧路市消防後援会」（宮田昌利会長）は28日、来年70周年を迎えることを記念して、除雪用のタイヤショベル1台を、釧路市消防本部（佐々木和史消防長）に寄贈した。

同会は1957年創立。2027年4月に創立70周年を迎える。今回の寄贈に至っては、同本部が大型除雪重機を保有しておらず、施設内の除雪作業に苦慮している現状を受け、周年の事業を前倒して実施。

同タイヤショベルは、同会役員で宮脇土建の濁沼英一代表取締役が、同社で使用していたものを同会に無償提供。同会が約70万円で塗装や整備を行い、同本部に寄贈することとした。すでに同本部で試運転が行われており、昨年12月の降雪時など、すでに活躍しているという。

この日は、宮田会長や濁沼代表取締役らが同本部を訪れ、佐々木消防長に目録を手渡した。宮田会長は「地域住民の安全

を守りつつ、除雪を手作業でしていたことにも大変敬意がある。今後も地域の安心・安全のため、活動してほしい」と話した。佐々木消防長は「除

雪作業は職員の労力もかかっていた。非常にありがたいことで、有効に使わせていただきます」と感謝した。

（森崎博史）

寄贈タイヤショベル贈呈式



寄贈されたタイヤショベルの前で佐々木消防長（右から1人目）や宮田会長（同2人目）ら